

—大阪府立大学 堀中博通教授、大阪市立大学 森川講師および㈱アドバンテストが科学技術振興機構の「先端計測分析技術・機器開発プログラム（機器開発タイプ）」の大型公募研究に採択されました。—

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の平成 24 年度大型公募「先端計測分析技術・機器開発プログラム（機器開発タイプ）」に、大阪府立大学大学院工学研究科の堀中博通教授—大阪市立大学大学院医学研究科の森川浩安講師—株式会社アドバンテストの三者が産学連携で応募した「超音波速度変化を利用した内臓脂肪診断装置の開発」の研究テーマが採択されました。

「超音波速度変化を利用した内臓脂肪診断装置の開発」では、超音波速度の温度変化を利用するという全く新しい原理を用いた非侵襲内臓脂肪分布測定診断装置を開発します。そして、現行の超音波画像装置を利用・改良して、リアルタイムで速度変化を検出し、肝臓の脂肪分布を画像化して、その脂肪量を定量化できる装置を目指します。本装置は短時間で、非侵襲かつ安価に実施可能な検査法であることから、実地臨床だけでなく、健康診断にも利用可能で、生活習慣病の早期発見・予防・治療判定に役立つことが期待されます。

本採択は、上記のような研究計画が高く評価されたものであり、これまでに大阪府立大学と大阪市立大学の教員およびコーディネータが、プロジェクトチームを組み、知財面の整備を含め両大学間で連携を推し進めた成果でもあります。

このような研究を進めるに当たり、平成 22 年 2 月に府大と市大との間で共同研究契約を、さらに平成 24 年 3 月に両大学に民間企業を加えた三者で共同研究契約を締結しています。尚、この両大学間の医工連携研究は、一般財団法人キャノン財団の平成 22 年度研究助成プログラム「産業基盤の創生」でも採択されています。

